

育て！こほく愛 ～みんなで地域を盛り上げよう～

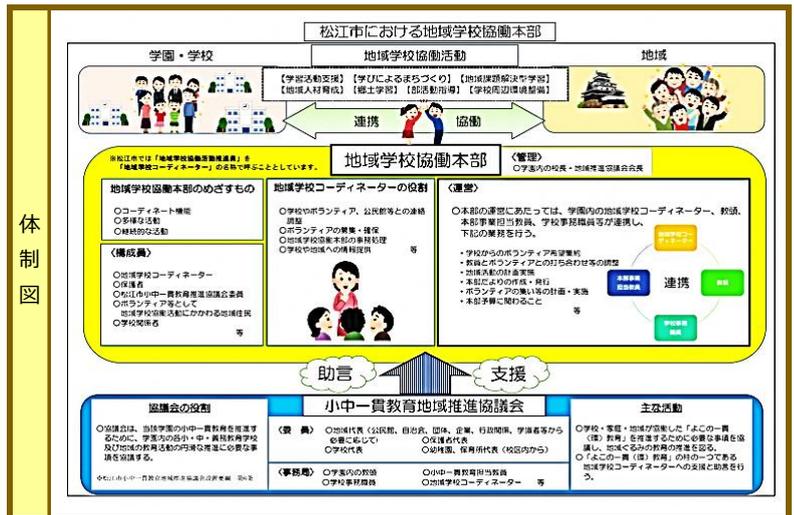
ジュニアリーダー研修会の取組

市町村名	名称	関係する学校名
松江市	湖北中学校区グループ 青少年健全育成協議会事業	松江市立湖北中学校

中学校区の人口	7,496 人		中学校区の世帯数	3,120 世帯	
開始年度	平成 17 年度	関係 学校数	4 校	合計 学級数	36 学級
活動内容	学校支援（地域学校協働本部）	放課後支援	家庭教育支援	—	—
				合計 児童・生徒数	544 人

地域学校協働活動 推進員等配置人数	統括的な地域学校協働活動推進員	統括コーディネーター	地域学校協働活動推進員	地域コーディネーター	合計
(内訳)	0 人	0 人	2 人	0 人	2 人
	地域住民				
ボランティア等数	登録人数(H30)			活動延べ人数(H30)	
	662 人			1,327 人	
学校区の協議会	名称	主な構成メンバー			人数
	小中一貫教育地域推進協議会	青少年育成協議会会長、民生児童委員、児童委員協議会会長、 公民館長、PTA会長・副会長、中学校長、小学校長、幼稚園長等			22 人

連絡先	松江市教育委員会 学校教育課
住所	〒 690 - 0854 松江市末次町 8 6
TEL	0 8 5 2 - 5 5 - 5 3 2 4
FAX	0 8 5 2 - 5 5 - 5 2 3 1
MAIL	hakensyakyo@city.matsue.lg.jp
参考URL	



これまでの経緯

本事業は、湖北中学校区の3つの地区の公民館と青少年育成協議会（以下「青少協」という。）を中心とした地域の人が連携し「子供たちの育ちを学校だけに任せるのではなく学校とともに地域みんなで支えていこう」という熱い思いから平成17年度に立ち上げられ、今年度で15年目を迎える。地域の大人が中学生をバックアップする体制ができており、中学生が地域で行うイベントを企画・運営したり、様々な地域活動にボランティアとして参加したりと中学生の活躍の場が広がっている。こうした活動を継続実施してきたことで中学生の地域への愛着や貢献意欲が高まっている。また、関わる大人の意識も高まり地域の活性化につながっている。

目的

中学生・保護者・地域の支援者が一堂に会し、1泊2日で実施する「ふるさと」や地域を見直す活動をととして、中学生の生きる力を育み伸ばすことを目指す。また、リーダーとしての資質向上と子供と大人の相互理解を深める。

○活動の概要

(1) 特色ある仕組み・体制・機能

・1泊2日のジュニアリーダー研修会において中学生が地域の大人とともに各地区で行うイベントを企画し、後日そこで企画されたイベントがそれぞれの地区で展開される。中学生自らが主体となり準備・運営をする。青少協や公民館を中心とした地域の大人が中学生の主体性を大事にしながらかバックアップする体制ができている。

・地域学校コーディネーター（地域学校協働活動推進員）が学校と地域の中継役として活躍している。日程調整や場の設定だけでなく活動内容や関わり方の相談にのるなど、中学生がボランティアに参加しやすい環境を整えている。また、生徒の成長や取組を「振り返りカード」や通信、掲示物等で見える化し学校や地域に伝えたり、思いやねらいを共有する「ボランティアの集い」等を企画したりするなど、様々な工夫をして連携・協働を深め、事業の継続、発展に寄与している。

(2) 活動を実施する中で明らかになった解決すべき課題

- ・地域や学校の関係者で、「ねらい」や「めざす姿」について共通理解が十分に図れていない部分があった。
- ・関わる大人が固定化してきた。

(3) 課題を解決するためのポイント

- ・事前の打ち合わせ会において学校教員や地域の大人それぞれの思いを語り合う時間を設け、「ねらい」や「中学生のめざす姿」「大人のめざす姿」を確認し共有する。実施後はアンケートや報告会でねらいを振り返り、次年度の活動に生かし発展させていく。
- ・青少協の他の会員やPTA等にも研修実施の案内をし、短時間でも中学生と関わる時間をもてるようにする。

○活動を実施しての効果・成果

・令和元年度にボランティアとして参加した中学生は94名（延べ324名）で、全校生徒の53%が地域活動に主体的に参加した。地域で様々な方と関わり学校ではできない体験をする中で、新しい自分を発見したり自分らしさを発揮したりと地域が生徒の豊かな学びの場となっている。また、そうした学びを学校生活や生徒会活動に役立てたいという声も生徒からたくさん聞かれた。地域での学びが学校生活にもつながり好循環を生み出している。

・本事業を継続実施してきたことで、イベントに参加した小学生が中学生の姿に憧れをもち、自分も中学生になったらボランティアをやりたいという思いを自然に抱くようになってきている。1年生のボランティア参加人数は、平成29年度に19名、平成30年度に24名、令和元年度は39名と年々増加している。

・様々な活動を通してたくさんの地域の方の温かさに触れ、喜んでもらったり認めてもらったりしたことが生徒の自信や自己肯定感の向上につながっている。「いろいろな人と話せるようになった。」「リーダーとしてレベルアップできた。」「人前で話すのが苦手だったが、意見を進んで言ったり議論したり自分の成長を感じた。自信が持てるようになった。」等の感想があった。また、「中学生は地域の人に見守られているので自分も地域にできることをしていきたい。」「もっと地域のことについて考え地元愛を深めたい。」「たくさんの人の笑顔が見られるようにしたい。」等、地域への愛着や貢献意欲も高まっている。

・関わった地域の大人も中学生と語り合ったり、イベントに参加して世代を超えた様々な人と交流したりする中で、やりがいや生きがいを感じている。さらに「大人も見習う必要がある。」「地域を思う中学生をこれからも地域で育てていきたいと強く感じた。」等、大人の意識も変わってきた。子供たちの成長とともに地域の活性化にもつながっている。

○今後の方向性

・本事業が、参加した生徒だけでなく中学校全体の取組につながっていったり関わる大人がさらに増えたりと、地域全体の取組として発展していくことを期待したい。

・平成28年度に、中学生が卒業後も湖北地区でボランティアができるような仕組みをつくろうと「湖北ボランティアクラブ」が結成された。このメンバーが中学生や地域で活躍する大人と一緒に活動したり交流したりする場をしかけ、活動の充実を図っていく。

・地域活動に関わった子供たちが、将来、湖北地区を引っ張り盛り上げていってくれることを期待したい。

○活動の様子

【令和元年度に各地区で行われた中学生が企画・運営したイベントの様子】※（ねらい）は、中学生が考えたもの



古江 寿スクール開校！

（ねらい）中学生による授業（川柳作り、団子作等）を通して地域の方との交流を深める。湖北中の様子を知ってもらう。



大野 大野ゆる〜リンピック！

（ねらい）小学生から高齢者までが一緒にゆるいスポーツを楽しむ。



秋鹿 ピースをゲットせよ！

～進め！あいか〜ず～
（ねらい）秋鹿のクイズやゲームをしながら親子でウォークラリーをして交流を深める。